

これってどう？

第7回 個人にフェアバリューを ソニー銀行の外貨預金新サービス

このコーナーでは、金融商品やサービスをクルー独自の視点で分析し評価していきます。

ネット専用銀行のひとつソニー銀行 (<http://sonybank.net/>) は、預かり資産残高の20%が外貨預金であるように、外貨預金に注力している。6月23日から新サービスも登場した。

3通貨の追加

これまでの米ドル、ユーロに加え、イギリスポンド、オーストラリアドル、カナダドルの3通貨が取り扱われるようになった。預金の種類は普通預金と定期預金(1ヶ月超~1年未満)、金利面での魅力が落ちてきた米ドル、ユーロに比べると高金利である。

いうまでもなく、金利だけに注目しての外貨投資は禁物。為替相場の動向が成否のカギとなるので、米ドル、ユーロより情報量の少ない3通貨への投資はやや難しい。相場の動きのチェックには、HPのメニューにある「外国為替チャート」が便利だ。ログイン前でも過去3ヶ月のチャート(日足)を見ることができ、ログイン後は月足、年足など様々なチャートが利用できる。また、

移動平均線などを表示することもでき、投資の判断をするのに役立つ。

対米ドル取引と fair price

新サービスの目玉は「対米ドル取引」の導入だ。個人が外貨取引をする場合、一般的に円を中心に行う。たとえばユーロ預金を持っている人が、ユーロが高くなったので米ドルに乗り換えることにした場合、いったん円に戻して米ドルに換えなければならない。ユーロ 円 米ドルの手順をたどることで為替交換手数料を「2度払い」させられる。為替ディーラーなどプロの間ではユーロ 米ドルのような対米ドル取引が日常的に行われているが、個人にはその方法が提供されてこなかった。このたびソニー銀行でユーロ 米ドル、米ドル 豪ドルなどの「対米ドル取引」が可能になったことで、「金融機関がその気になればできる」ことが証明されたといえよう。

ソニー銀行のコンセプトに「個人を外国為替市場へ近づける」というのがある。それは、世界のどこかで市場が開いているため24時間の

ネット取引を可能に、TTM(仲値)により近い為替レート(「fair price」)を提供する、市場レートが10銭変動するたびにTTS、TTBを更新する、などのサービスにも現れている。

とりわけ の為替手数料の安さに注目している人は多いだろう。通常時でも安いのだが、8月29日までのキャンペーンによってさらに安く、対円で米ドル・ユーロが片道10銭(通常時25銭)、英ポンド・豪ドル・カナダドルが30銭(同50銭)となっている。東京三菱をはじめ、みずほ、三井住友、UFJも表のとおりの高い手数料を取っており、有利性は歴然である。

相変わらずの銀行が多い一方、三菱信託が米ドル50銭、ユーロ75銭で、新生が平日取引のユーロ、豪ドル、NZドル手数料を片道1円で提供するなどの動きも出てきた。一時のサービスに終わらず、真に顧客に向き合っているかどうかで、各行の今後の明暗が分かれると思う。

(クルー 浅田里花)

米ドルから他通貨に乗り換えた場合の為替コスト(片道)比較

通貨	ソニー銀行		東京三菱銀行			差額	
	米ドル	他通貨	円換算	米ドル 円	円 他通貨 合計		
ユーロ	0.0015	米ドル	18 銭	1 円	1.5 円	2.5 円	2 円 32 銭
英ポンド	0.0030	米ドル	36 銭	1 円	4 円	5 円	4 円 64 銭
豪ドル	0.0030	米ドル	36 銭	1 円	2 円	3 円	2 円 64 銭
カナダドル	0.0060	カナダドル	54 銭	1 円	1.6 円	2.6 円	2 円 06 銭

8月29日までのキャンペーン手数料を適用
1米ドル=120円、1カナダドル=90円で換算